

一日で減んだのかな

一月二十一日 火曜日 一日で減んだのかな

夕べは早くから床に入り、  
寝ついたのは十一時頃だっただろうか。  
体の疲れを癒すには十分な休養だった。  
朝方、何回も目が覚める。  
しかし、まだ起きるには早すぎる。

六時五十分頃寝ていたら、  
おばあちゃんが出し抜けに  
餅を焼いて持って来てくれた。  
寝ながらそれを食べた。

七時に再びおばあちゃんが起こしに来るのを  
待ち、寝た。朝の最後の十分の眠りが貴重。

今日も急行、それも、人がたくさんいるのに  
座れた。毎日、同じ時間の同じ車両に乗るので  
もうどの人が次の駅で降りるかがわかる。

今日は、国語の授業が抜けて、七時間が六時間になった。  
四時間目に変ったホームルームの時間、  
生徒会誌の要求で、皆、  
それぞれ、詩、短歌、作文を書く。

僕は半分ふざけた調子で、  
「花」と「鼻」とが問題になる  
ややつこしい詩を書いた。